

2020年度 第25回
東アジア近代史学会 研究大会

2020年10月3日・4日（土・日） オンライン開催 (Zoom) 参加費 無料

※ 事前申込制（会員・非会員問わず参加可。会員含め下記Googleフォームよりお申し込み下さい）

シンポジウム「スポーツと東アジア—国家/帝国、国民/民衆—」

1日目：10月3日（土）

開会あいさつ 10時

檜山 幸夫（東アジア近代史学会会長・中京大学）

- 自由論題報告(1) 10時05分～11時50分（1人発表25分・質疑応答5分） 司会 高江洲 昌哉（神奈川大学）
- 濱口内閣の権力統合原理と拓務省廃止構想 十河 和貴（立命館大学・院）
- 戦後日本における経済統制と復興—制限付き民間貿易の再開を中心に— 毛利 拓臣（駒澤大学・院）
- メコン河開発をめぐる日本政府の立場—佐藤内閣の東南アジア外交に関する考察— 范 艶芬（京都大学・院）

- 歴史資料セッション「歴史資料としての近代宗教関係文書—保存と活用の実現に向けて—」

13時～16時30分

趣旨説明

長谷川 怜（皇學館大学）

仏教寺院が保管する史料の研究資源化—水野梅暁と藤井静宣関係史料を中心に— 広中 一成（愛知大学）

教団史と戦後歴史学—新宗教・大本を事例として— 永岡 崇（駒澤大学）

『檀原神宮史』編纂事業と所蔵史料の活用 長谷川 怜（皇學館大学）

〈史料紹介〉五百羅漢寺における史料の保存・公開の取り組み（暫定） 堀 研心（天恩山五百羅漢寺）

総合討論 司会 岩壁 義光（法政大学）

2日目：10月4日（日）

- 自由論題報告(2) 10時15分～12時（1人発表25分・質疑応答5分） 司会 佐々木 雄一（明治学院大学）

東アジア海域における領海制度の展開—日中韓漁業紛争(1906—1912)を事例として—

佐藤 良聖（東京大学・院）

日本統治下の台湾における植民地言論体制の創出—帝国言論空間の一類型として—

谷川 舜（早稲田大学・院）

引揚医師の資格認定問題—昭和21（1946）年勅令第42号の制定と引揚医師の救済措置—

鈴木 哲造（中京大学）

- シンポジウム「スポーツと東アジア—国家/帝国、国民/民衆—」 13時～17時20分

趣旨説明

檜山 幸夫（中京大学）

帝国日本の神社とスポーツ

藤田 大誠（國學院大学）

帝国日本のスポーツと民族の「融和」

金 誠（札幌大学）

劉長春と于希渭—中国と満洲国を代表した関東州生まれのアスリート—

高嶋 航（京都大学）

1964年東京オリンピックと東アジア—参加・名称・入国をめぐって—

富田 幸祐（日本体育大学）

コメント

平山 昇（神奈川大学）・小野 容照（九州大学）

総合討論

司会 櫻井 良樹（麗澤大学）・青山 治世（亜細亜大学）

〈参加申込み〉 <https://forms.gle/UFdgzinTKXQ2qjAU6> (Googleフォーム) こちらのURLからお申し込み下さい (10月1日締切)

〈問い合わせ〉 東アジア近代史学会事務局 E-mail modern_east_asia_jm@hotmail.co.jp (申し込み以外のご連絡)